

子供たちの未来への種まき

6月10日(土)での学校公開日では、学級によっては道徳科の授業を参観された保護者・地域の方方もいらっしゃると思います。そこで今回は道徳性について話したいと思います。

道徳性は目に見えないものなので、水面に浮かぶ冰山を意識していただきたいと思います。水面から出ている部分は、その人の「行動、振る舞い」、水面より下の部分は、「道徳性(心の内面)」とします。

道徳科の授業では道徳性を育てています。しかし、すぐに行動に結び付くかという時間がかかることもあります。そこで全教育活動の中で、生活指導を含めて、してはいけないこと、とてもよいことなどを指導をしていくと、水面より上の部分が増えることが期待できます。

小学生の頃は、まだまだ道徳性が十分に備わっていないかもしれませんが、だからこそ、道徳科の授業でスポンジのように多くを吸収できると思います。(文筆:道徳部 久慈利幸)

4年生の道徳科の時間

今月は4年生です。この日の授業では、自分たちを支えてくれている人々に、尊敬と感謝の気持ちをもって接しようとする心情について考えました。

主題名:感謝の気持ちを

内容項目:「感謝」

あらすじ:『いつも利用していた駄菓子屋さん。そこではおばあちゃんがお店を経営しています。ケン君とゆうじ君がいつものように店に行くと、おばあちゃんから「もう店を閉めるのよ。」と言われショックを受けます。でも二人は、他の友だちを誘い合って感謝と励ましの会を開くことにしました。お店の最後の日、大勢で感謝の気持ちを伝えるに行くと、おばあちゃんは感激のあまり、涙が止まりません。』

感謝の気持ちをもつ大切さに気付く教材です。

教師の問い

子供たちの読む感謝状に涙が止まらないおばあちゃんの気持ちについて考えましょう。

子供たちの考え

- ・生きていてよかった。こんな最高のプレゼントは初めてです。みんなありがとう。
- ・成長してくれてうれしい。こんな子供たちに囲まれて温かい気持ちになった。

授業の後半では、学習のねらいである「感謝の気持ち」について、あらためて子供たちの考えを聞き、ふり返りをしました。

教師の問い

「自分を支えてくれる人にどんな思いを伝えたいですか。」

子供たちの考え

- ・いつもお世話をしてくれてありがとうございます。
- ・登下校のときに、安全を見守ってくれてありがとうございます。

板書・授業の様子です。

